

令和8年8月25日
教 育 指 導 課

世田谷区の教育の在り方における「子ども像」について

1 主旨

世田谷区では、世田谷区教育振興基本計画において、教育目標を「幸せな未来をデザインし、想像するせたがやの教育」とし、子どもを主体とした教育への転換を図り、その取組みの中心として「キャリア・未来デザイン教育」に取り組んできた。

「キャリア・未来デザイン教育」では、「キャリア教育の推進」と「せたがや探究的な学びの推進」、そしてこれらによる子どもたちの学びと育ちを支える「非認知能力の育成」を主眼とし、各教科等の学びで身に付ける力と、これらを活用する体験の充実を通して、子どもたちが自ら考え、生涯学び続けるための力を伸ばすことを大切にしてきた。

現在、国では学習指導要領の改訂に向けた議論が進められており、令和8年度末には新たな学習指導要領が公示される見込みとなっている。

本改訂に合わせ、世田谷区教育委員会として、昨年度より「世田谷区教育検討委員会」を設置し議論を進め、令和8年2月には「世田谷区教育課程編成（検討素材）」として論点を整理した。

令和8年度では、「世田谷区教育課程編成（検討素材）」の「検討すべき主要な視点（6項目）」に沿って議論を進めてきた。今般、そのうち「①全体像（教育の理念・構造の再整理）」に係る中核的な概念として「世田谷区の特色」と「世田谷区として目指す子ども像」について議論した結果を報告する。

2 報告の主な内容

（1）世田谷区の特色

区の教育目標である「幸せな未来をデザインし、創造するせたがやの教育」の実現に向けて、これまで積み重ねてきた教育実践等を基盤として、「多様性」「地域愛」「ことばの力」を教育の特色として掲げる。さらに、文部科学省中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理（2025年9月25日）」において「情報活用能力の抜本的向上」を改訂の柱に位置付けている点や、「グローバル社会を主体的に生き抜く資質・能力の育成」を重視する点から、「ICT（情報活用能力）」や「国際理解」についてもこれまでの区の実践を整理し、今後の教育の在り方の中で検討していく。

（2）世田谷区が目指す子ども像

以下の学びを通して、子どもたち一人ひとりが予測不可能な社会の変化に受け身ではなく、自ら積極的に課題に向き合い判断し行動し、それぞれが思い描く未来を実現できる人材の育成を目指す。

① 多様性

「自分と他者を大切にし、違いを認め、思いやり、自分らしい未来を切り開く子ども」

自他を尊重する人権感覚、多様性を受け入れる共生の力、他者への思いやりと協働する力、そして主体的に未来を創造する力を育むという願いが込められている。世田谷区の教育が目指す「一人ひとりが自分らしく学び、共に生きる社会の創り手」の姿を象徴するものである。

②地域愛

「我が国とせたがやのまちの文化や伝統を愛し、誇りをもって国際社会で活躍する子ども」

自らのルーツである我が国や世田谷の文化・伝統への理解と愛着を深めるとともに、多様な価値観を尊重しながら世界とつながり、地域社会と国際社会の発展に貢献できる力を育みたいという願いが込められている。地域への誇りを礎として、グローバルな視野をもち、未来を切り拓く子どもの育成を目指すものである。

③ことばの力

「ことばの力を基盤に、情報を活用して判断したり、自ら深く考えたりする子ども」

ことばによる豊かなコミュニケーションを基盤として、多様な情報を主体的に活用しながら、自ら問いを立て、仲間と対話し、深く考え続ける力を育むことを目指す願いが込められている。情報社会を生きるための判断力・思考力を身に付け、世田谷から未来の社会を創造する担い手となる子どもの育成につながる子ども像である。

3 今後の取組み

(1) 世田谷区教育検討委員会において議論の深化

世田谷区の教育の在り方や新たな教育課程編成について議論する。

(2) 委員構成

	所 属	氏 名
委員長	横浜国立大学 名誉教授	高木 展郎
副委員長	教育委員会事務局 学校教育部長	山田 一哉
委員	教育総合センター長	宇都宮 聡
	教育委員会事務局 学校教育部 教育指導課長	東城 良尚
	教育委員会事務局 学校教育部 副参事	赤司 祐介
	教育総合センター 事業推進担当課長	柄澤 武志
	世田谷区立中町幼稚園長	山路 智之
	世田谷区立下北沢小学校長	廣石 雄司
	世田谷区立笹原小学校長	吉田 健二
	世田谷区立八幡小学校長	阪田 敦子
	世田谷区立玉川中学校長	松永 かおり
	世田谷区立北沢学園中学校長	加藤 敏久
	世田谷区立世田谷中学校長	稲 満美

(3) 今後の検討内容

学校の裁量により授業時数を調整し、年間一定時間を確保することで、探究的な学びやキャリア教育、体験活動等を充実させるなど、「世田谷区教育課程編成（検討素材）」の「検討すべき主要な視点（6項目）」に沿って検討を進めていく。

4 今後のスケジュール

<令和8年度>

2月 文教常任委員会報告（世田谷区の教育の在り方について（中間報告））

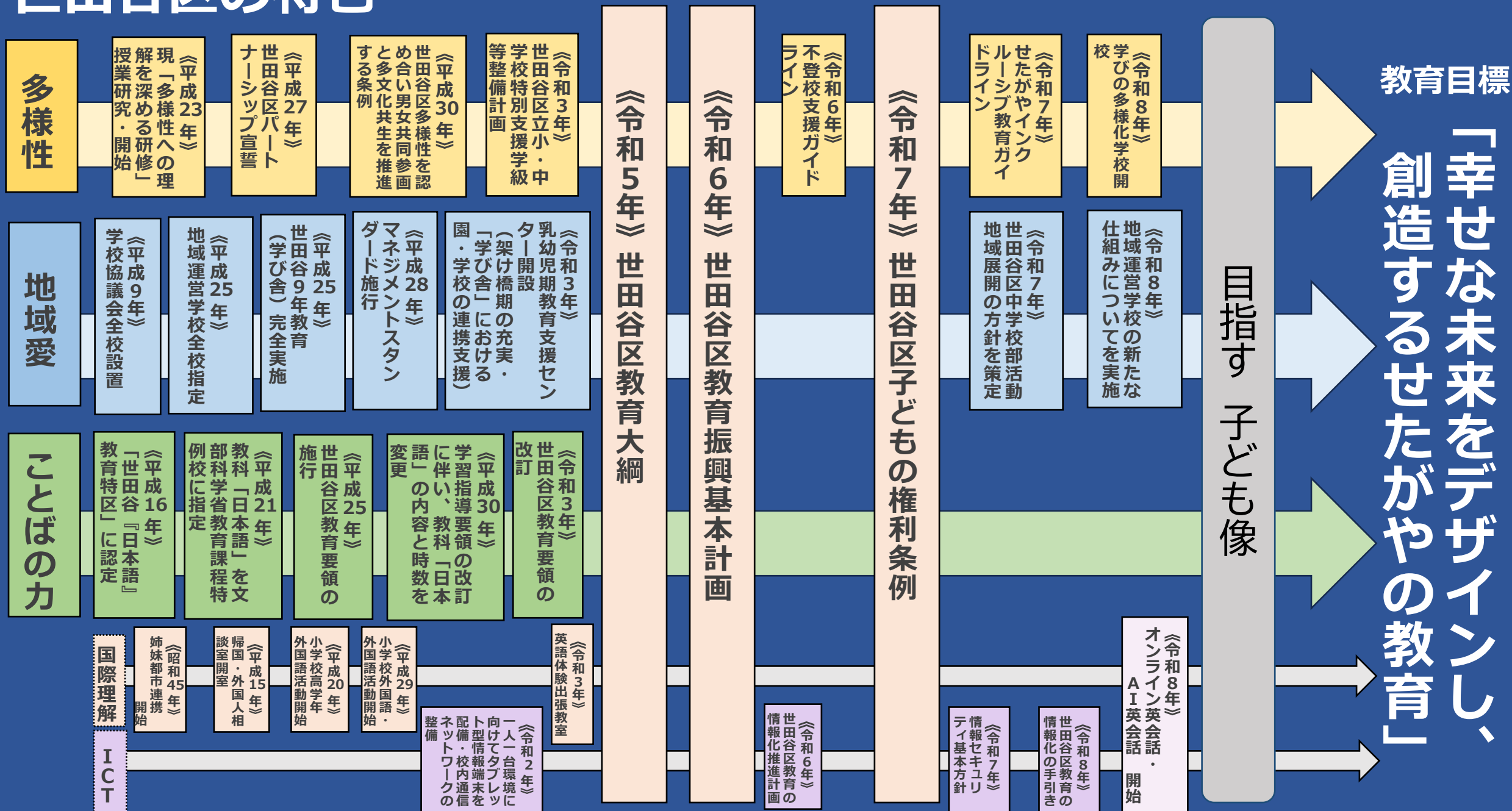
<令和9年度>

4月 研究推進校による取組みの実施

9月 文教常任委員会報告（世田谷区の教育の在り方について）

2月 文教常任委員会報告（世田谷区の教育の在り方について）

世田谷区の特徴



教育目標「幸せな未来をデザインし、創造するせたがやの教育」

子ども像

自分と他者を大切にし、違いを認め、思いやり、自分らしい未来を切り拓く子ども（多様性）
我が国とせたがやのまちの文化や伝統を愛し、誇りをもって国際社会で活躍する子ども（地域愛）
ことばの力を基盤に、情報を活用して判断したり、自ら深く考えたりする子ども（ことばの力）

3つの視点

共に学び、共に育つ上で大切にしたいこと

自分のよさや可能性を信じる

違いを認め、思いやり、学び合う

社会の創り手として行動する

4つの基本方針

4つの基本方針

新しい知を創造する



地球の一員として行動する



多様性を受け入れ自分らしく生きる



共に学び成長し続ける



学校・地域の
実情にあわ
せた取組

多様な子供たち
を包摂する柔軟
な教育課程

豊かな学びに繋
がる学習評価

質の高い探究的
な学びの実現

情報活用能力の
抜本的向上

「余白」の創出を
通じた教育の質
の向上の在り方

②多様性の包摂

世田谷区重点人権課題の取組推進

インクルーシブ教育・国際理解教育の推進

①深い学びの実装

キャリア教育の推進

せたがや探究的な学びの推進

非認知能力の育成

③実現可能性の確保

働き方改革

地域・企業との連携

子どもの権利条例の制定

学校運営協議会の新たな仕組

次期学習指導要領に向けた基盤となる考え方と教育委員会の取組